

## 外国人客員研究員

### ネリカ (New Rice for Africa) と日本のイネ品種の幼苗期および生殖成長期における耐冷性比較

フンジャ・ムラゲ ジョモ・ケニヤッタ農工大学園芸学科講師  
ICCAE客員研究員 (任期: 2008年5月7日~11月5日)

ケニアでは都市部の人口増加に伴い、米の消費量が増大しています。2015年までには、一人当たりの年間米消費量は、現在の7kgから11kgに増大すると予想されています。ケニアは米の消費量の86%を輸入に頼っており、価格の高騰や外貨の流出を防ぐためにも、米の消費拡大に対応した生産量の増大が必要です。しかし、ケニアでは、イネ研究および灌漑を含む農村インフラの整備に対する投資が少ないため、米生産の向上は実現していません。

ネリカの普及は、米の消費量と生産量とのギャップを解消するのに役立つと考えられています。ケニアには、標高1100メートル以上の高原地帯に広大な農耕適地が広がっていますが、そこでは夜間の気温低下による不稔発生のため、ネリカの普及が阻害されています。こ

の問題の解決に向けて、名古屋大学において、ネリカの耐冷性を日本やIRRIのイネ品種と比較する実験を行いました。その結果、ネリカは低温による障害を受けやすいことがわかりました。また、ネリカは、夜間低温にさらされても、日中の気温が十分に高ければ、低温による登熟歩合の低下を防げることが明らかになりました。冷害の問題以外にも、ネリカには、通常の生育条件下においても登熟歩合が低いといった問題があることが明らかになりました。

私の日本滞在を可能にしてくれたすべての人々、特にICCAEの教員の皆様、中でも浅沼教授と槇原准教授に感謝を捧げます。



**略歴** 1960年ケニア生れ。1984年、ナイロビ大学理学部卒業後、ジョモ・ケニヤッタ農工専門学校(現・ジョモ・ケニヤッタ農工大学)助講師として勤務。1989年、岡山大学大学院農学研究科修士課程を修了。1994年、ドイツ・ハノーバー大学客員研究員、2005、2007年、英国・ノッティンガム大学客員研究員を務める。現在、ジョモ・ケニヤッタ農工大学講師として勤務。

### カンボジアにおける酒造り農家の収入構造と、品質向上の収入への貢献に関する研究

チャンティ・ホウト カンボジア王立農業大学講師  
ICCAE客員研究員 (任期: 2008年10月1日~12月31日)

ICCAEの客員研究員として、カンボジアの酒造農家の生計状況および品質向上による収入への寄与について研究を行いました。カンボジアでは、タイヤラオスと同様に米を原料とした蒸留酒を作っている農家が沢山います。多くの酒造農家があるタケオ州トラムコック郡とトリアン郡において調査をした結果、酒造農家は非常に薄利な状況であり、その主要因は低品質と高い失敗頻度であることが明らかとなりました。しかし、品質向上と失敗頻度を下げることにより、カンボジアの農村地域における酒造ビジネスは、農家の収入に貢献する高い可能性が示唆されました。

この調査を実施した際に、ICCAEスタッフや日本人

の酒造専門家と一緒に、米酒の品質を向上させるための試作品作りを経験することができました。農家と一緒に作業をすることは、農家の実態や問題点を理解するための非常に良い実地研修でした。私が経験したような現場での実習を、いずれRUAのカリキュラムにも取り入れ、学生への教育と同時に農家にも貢献できるようにしたいと考えています。現在RUAでは、米酒を作るための蒸留装置を建設中です。さらなる品質向上に向けた実験の場として、そして学生への実習教育の場として活用していきたいと思っています。



**略歴** 1983年カンボジア、コンボンチュナンの農家生れ。カンボジア王立農業大学において農産物を専攻した後、タイのコンケン大学にてアグロバイオシステムを学び、2007年4月より現職。

## オープンセミナー (2008年7月~12月)

回数	日時	テーマ	講師	所属
2008年度 3回	7月11日	農村地域における都市アメニティーの提供と新しい農村計画モデルに関する考察 インド: PURA事業を例にして	澤井克紀氏	国際協力銀行 開発第3部次長
4回	10月24日	見直されるアフリカの伝統作物と食文化 —ケニア農村地域における植物遺伝資源の利用と保全の試み—	森元泰行氏	バイオヴァーシティ・インターナショナル (旧 国際植物遺伝資源研究所) 研究員
5回	11月4日	ネリカと日本のイネ品種の幼苗期および生殖成長期における耐冷性比較	フンジャ・ムラゲ氏	ジョモ・ケニヤッタ農工大学 講師(ケニア) 農学国際教育協力研究センター客員研究員
6回	11月25日	ネリカ種子の増殖を通じてアフリカ稲作を支援する	池田良一氏	JICA長期派遣専門家(WARDA): 種子増殖
7回	12月25日	農民の経験と彼らが直面している問題を如何にRUAの農産物加工教育に活かすか	チャンティ・ホウト氏	王立農業大学ジュニア講師(カンボジア) 農学国際教育協力研究センター客員研究員